

2018年8月7日
九州旅客鉄道株式会社

2019年3月期第1四半期決算電話会議 主なQ&A

- Q 「平成30年7月豪雨」について、収支に与える影響は。また、現在不通となっている筑豊本線（原田線）の復旧についてはどのように考えているか。
- A 「平成30年7月豪雨」によって収入面で一定の影響があったと考えているが、現時点で定量的に開示できるものはない。筑豊本線（原田線）の復旧については、沿線外にも被害が及んでおり、関係者間で復旧工法も含めて検討中であるため、現時点では復旧時期や復旧費用などを合理的に見込むことができない。
- Q 在来線の鉄道旅客運輸収入が4億円の減収となっているが、その理由を詳細に教えてほしい。
- A 「平成29年7月九州北部豪雨」により久大本線等で影響があったほか、6月については昨年に比べて天候が不順だったこと等の影響があったと考えている。
- Q 「平成29年7月九州北部豪雨」で被災した日田彦山線の進捗状況について教えてほしい。
- A 日田彦山線については、2018年4月に沿線自治体の皆さまと話し合う場を設け、今後の復旧について議論を進めている。復旧に当たっては「鉄道で復旧するための方策に関する検討をすること」、「復旧後の日田彦山線の継続的な運行の確保について検討すること」の2点を課題として認識し、1年以内に何らかの結論を出す方向で進めている。
- Q 災害が多発している中で、災害を予防する投資の検討状況は。
- A 災害を予防する投資をどのレベルまで実施するのかが決めるのは難しいが、安全投資については今後も着実に実施する。現時点では、中長期的な鉄道事業の投資額の上積みは考えていない。
- Q アリババグループとの戦略的提携のリリースがあったが、下期にはアリババグループが九州に5万人を送客するという内容であった。下期における投資額や増収効果について、2019.3期の計画では見込んでいるのか。
- A この提携に伴い、下期に投資が発生することは見込んでいない。収益面では、当社のD&S列車を活用した旅行商品をアリババグループで販売する等を検討している状況であり、何らかの形では収益の貢献があると考えている。

以上